

優秀賞（個人）

井浦 久代(早良区)

地域のボランティア清掃や 花づくりによりきれいな町づくりに貢献

「町内がきれいだと気持ちがいい」との思いから、町内の公園愛護会の活動に参加したことをきっかけに、地域の清掃ボランティアとして35年以上の長きにわたり環境美化活動に取り組んでいます。現在は、1年を通じて清掃活動や花壇づくりに取り組むとともに、公民館で実施される「花の寄せ植え講座」の講師を務めるなど、学校や地域団体とも連携し、地域の環境美化に貢献しています。



優秀賞（団体）

室見川再生を語る会(西区)

室見川の素晴らしさを伝える環境学習

団体の結成以来、16年にわたり次世代を担う子どもたちへの環境教育に取り組んでいます。特に、室見川再生のための「室見川再生市民フォーラム」や室見川に関連した「環境講座」を数多く実施。開始当初は、矢倉橋に近い金武小学校の環境学習を支援していましたが、現在は保育園や幼稚園、高校などにも活動の範囲を広げ、幅広い年代の子どもたちに対し、河川の役割や室見川の生態系などを伝え、命の大切さや環境保全の重要性を伝えていきます。



優秀賞 (学校)

学校法人藤川学園 公務員ビジネス専門学校(博多区) 地域が取り組む美化活動への積極的な参加

地元の自治会が地域住民や観光客に花のある空間を楽しんでもらいたい、福岡の町に良いイメージをもってもらいたいとの思いから、町内に花を植える活動を開始。約350鉢あるプランターの花を年3回の植替えています。地域の高齢者だけではマンパワーが足りず、学生たちは積極的に地域の方々とコミュニケーションをとりながら楽しく植替え作業を手伝っています。また、学生たち自身も地域の環境美化促進のため、毎週火曜日と金曜日に学校周辺の清掃活動も実施しており、定期的な花の植替えと管理、清掃活動によって、ごみやたばこの吸い殻も少なくなり、地域全体の環境美化に貢献しています。



優秀賞 (学校)

福岡工業大学附属 城東高等学校科学部(東区) 和白干潟の保全活動と地域への還元

生き物たちの楽園であるはずの和白干潟がアオサで覆われている状況を目の当たりにし、干潟の保全活動を開始。和白干潟の清掃活動や和白干潟に生息する生き物の調査、希少生物の保護・保全活動を行っています。大学の専門家等にアドバイスをもらいながら、アマモ場の再生を目指した調査・研究、アオサの処理に関する研究等にも取り組んでおり、その成果を日本水産学会や日本動物学会で発表し高い評価を得ました。また、自然環境を守るための啓発活動の一つとして福岡市環境局、和白校区子ども育成連合会、和白公民館と連携し「福岡レンジャー」を結成。校区の小学生を対象に野鳥観察会を実施するなど地域住民に和白干潟の重要性や環境保全への関心を高めています。さらにユースフェスタひがしや博多湾シンポジウムへも出展し、広く市民にも和白干潟を紹介しています。



優秀賞 (事業者)

株式会社九電工(中央区)

長年にわたる環境美化活動

50年以上継続して例年10月に社会奉仕活動「さわやかコミュニティ旬間」を実施しています。

2021年度も福岡城跡や住吉神社、会社周辺などの除草やごみ拾いを実施しています。「ありがとう、日頃の感謝を届けます」の標語を掲げ、九電工及びグループ会社従業員延べ10,000人が参加しています。

なお、福岡城跡清掃では、80人が参加し90Lのごみ袋40～50袋を回収しました。また、2018年には海洋プラスチックを減らしたいとの思いから、参加者700人でプラスチックごみの回収を目的とした志賀島の海岸清掃を実施し、16tの海洋ごみを回収しました。



優秀賞 (事業者)

東洋建設株式会社九州支店(東区)

アマモ場造成とアマモ場づくり体験による環境学習

以前より、海域の環境保全活動の一環として、採種シート敷設工法によるアマモ場造成を主とした藻場再生に取り組んでいましたが、平成17年に福岡市が市民参加によるアマモ場づくり活動や小学生を対象とした環境体験学習に取り組んでいることを知り、市と連携、協力しながら15年以上活動を継続しています。体験学習では、アマモ場と海の環境の関わりについて伝えるとともに、海の生物との触れ合いやアマモポットでのアマモの育成・観察、海底に敷設するアマモシートの作成など、子どもたちが実際に体感できる方法を用い、海の環境への興味・理解を深め、環境を守ることの大切さを伝えています。長年の活動により、これまで体験学習に参加した児童や地域住民は1,500人以上に達し、地域全体の環境保全意識の醸成に貢献しています。

